



中山廣子 議員 (公明党)

1か月児及び5歳児健康診査の導入を

答弁…1か月児は実施する、5歳児は検討する

問 法定健康診査の3歳児健診と就学時健診との間に、5歳児健診を導入することで、発達特性を早期に発見でき、適切な支援や療育につなげることができる。国は5年度補正予算で「1か月児」及び「5歳児」健康診査支援事業を決定した。本市の取組を伺う。

答 1か月児健康診査は、現在医療機関で行われており、6年度当初予算案に健診費用の助成を計上している。また、5歳児健康診査の実施に当たっては、医師など専門職の確保が難しい状況なので、他市町の動向を把握し、導入するべきかどうか慎重に検討する。



乳幼児健康診査を行う保健センター待合室

選挙 投票率を向上させる取組を

答弁…効果的な啓発・支援の研究に努めていく

問 選挙権年齢が「満18歳以上」になり、約8年が経過した。18歳を迎え、新たに選挙人名簿に登録された方に、選挙への積極的な参加を促すための「新有権者の証」を送付しては。また、投票所において支援が必要な方のために「投票支援カード」を導入しては。

答 選挙管理委員会としても、若年層の政治や選挙への意識向上は重要と考える。提案された「新有権者の証」を含め、効果的な啓発事例の調査研究を進める。また、「投票支援カード」は、選挙人の意向をくむ手段として有用であり、今後の選挙から導入を進める。



遠藤誠 議員 (WAKABA)

市内地域間交流

答弁…主催者の考えをくみ取りながら進める

問 地域のお祭りに他の地域の方を招待したらどうか。市はその仲介を。一番見せたい場面を見てもらえば文化的資源が生かせるのではないか。また、柴山沼の散策や八幡神社の行事などの観光資源を活用し、交流を図ったらいいのではないか。

答 他の地域の方をイベントに招待することは、主催者の考えをくみ取りながら進めていく。観光資源を活用した交流は、組み合わせが多いことから厳しい状況である。今後は、観光協会と連携し、より多くの方がイベントや観光スポットを訪れるように努める。



新しい市民祭り

福祉 「気になる子」

答弁…障害児保育に関する環境の充実に努める

問 例えば言葉の遅れや多動傾向など保育園等で気になる子が増えている。こうした子のケアには多くの人手が必要である。人的手当てが不足すれば、職員が疲弊する。気になる子への国、県の対応はどうなっているのか。また、市の対応は。

答 国、県から障害児保育に係る配置基準、各種補助制度等は示されているものの、十分とは言えない状況であると認識している。

今後、あらゆる機会を捉えて、障害児保育に関する各種制度の拡充を訴え、障害児保育に関する環境の充実に努めていきたい。